



「普天間飛行場 ⑥」

はじめに 普天間飛行場の北西側の緑地帯にある伊佐上原遺跡群は、沖縄貝塚時代の約五千年前から戦前・沖縄戦までの集

落・墓地・畑・道の跡などがきれいに残り、市民の方々の土地利用とその移り変わりが知られる重要な遺跡です。

伊佐グスクと拝所 その場所には、

約三千年前の地面を掘りくぼめた竪穴住居跡のほかに、伊佐区在の古老が伝える伊佐グスクがあります。実際に、その近辺からグスク時代初期の約八百年前の掘立小屋のような母屋と倉庫らしい建物跡が発掘され、また拝所を意味する「いさ嶽」原と刻まれた約三百年前の測量石も見つかっています。伊佐の草分けの地で



△柱穴から復元した掘立柱建物跡



△ケレンケレンガマの洞穴内のような



△海から見る戦前の宜野湾市

問合せ：文化課 ☎893-4430

しようか。

沖縄戦の避難壕

また、去る六十八年前の沖縄戦のときに、伊佐の区民が日米両軍の戦禍を逃れたケレンケレンガマやアカガマなどの避難壕も残され、奥深い洞穴に身をひそめ、鍾乳石から滴り落ちる水にのどをうるおした当時の生活がしのばれる場所となっています。

ぎのわんの歴史・文化遺産

現在、市教育委員会では、長い歴史を経て育まれてきた市内にあるさまざまな文化財を、その周辺環境まで含めて『ぎのわんの歴史・文化遺産』と考え、宇宜野湾、神山郷友会等の方々と一緒に、地域の古老の記憶に刻まれた戦前の宜野湾市＝普天間飛行場の原風景の再現づくりに取り組んでいます。次回からは、キャンプ瑞慶覧に残された『ぎのわんの歴史・文化遺産』をご紹介します。

茶ぐわーゆんたく

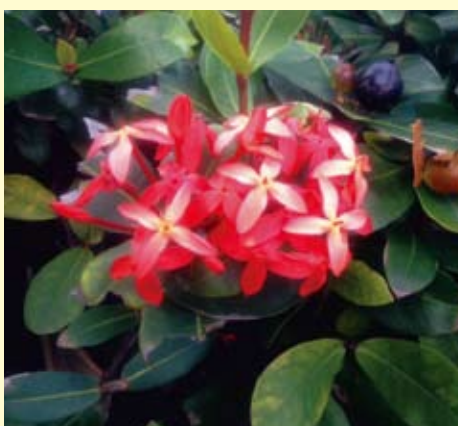
109

市のシンボル サンダンカ

みなさんは宜野湾市にも市花木(※)があることをご存知でしょうか。今回は宜野湾市の市花木であるサンダンカをご紹介します。

サンダンカは昔から沖縄の三大名花の一つとして人々に愛されてきました。沖縄の三大名花とはオオゴチョウ、デイゴ、サンダンカの三つの花のことです。

アカネ科サンダンカ属の総称で常緑少低木の美しい熱帯花木で、花の色は白色から紅色、それに黄色があり、また葉の大きさなどさまざまあります。主に切り花として用いられています。サンダンカにはいろいろな種類があり、近年では小葉のサンダンカが、主に生垣など緑化木として利用されています。



市の花木 サンダンカ

サンダンカの開花期は5月と11月が最盛期ですが、周年開花する花のため、一年を通して楽しむことができます。

サンダンカは市花木に制定されていることもあり、市内のいろんな場所で見ることが出来ます。最近では寒さも和らぎ、過ごしやすい季節になってきました。サンダンカを探しに市内を散策してみたいいかがでしょうか。

※宜野湾市では、市花(菊)、市木(リュウキュウコクタン)、市花木(サンダンカ)が市のシンボルとして親しまれています。



喜友名の道路沿いに咲いているサンダンカ

「宜野湾市史」への問合せ  
文化課 市史編集係(市立博物館内)  
☎8970-9317